

東京都檜原村の総合事業について（デマンドバス実証運行）

計画事業

現況及び課題

- 地域全体が山間部であるため、急峻な地形が多く、公共交通としては主要道路（都道）を運行する路線バスのみとなっている。
- 路線バスは、高齢者の日常生活を支える外出の足や小・中学校のスクールバスの機能を担っているが、年々進行する高齢化と人口の減少などが、過疎化に拍車をかけて路線バス需要の低下を招いている。
- 村内には多くの交通空白（不便）地区があり、そこに住む住民のニーズに沿った路線バスのフィーダー交通システムの構築を図り、新たな路線バスの需要（利用）を開発し路線バスの維持・活性化を図ることが必要である。

活性化の目標・方向性

- バス停までのフィーダー（支線）交通により、交通空白（不便）地域を解消する。
- 高齢者や小・中学生、高校生等の移動制約者の日常生活を支える移動手段を確保する。
- バスの需要（利用）を開発し、「安全・安心」な「活力ある」まちづくりに貢献する。
- 路線バスの改善・充実と連携し、檜原村の公共交通ネットワークの形成を目指す。

実施する事業の内容

- 檜原村デマンドバスやまびこ実証運行事業（平成20年2月～平成22年度）
 - ◆ ルート 神戸線：神戸園入口－神戸自治会館－大橋－春日神社－公営住宅入口－郷土資料館
藤倉線：上白岩－月夜見入口－旧藤倉小前－藤倉バス停－総角沢回転場－藤倉バス停
 - ◆ 本数 神戸線：1日14便（定時便10本、予約便4本）、藤倉線：1日10便（定時便9本、予約便1本）
 - ◆ 運賃 100円
- 利用促進方策（平成20年度～平成21年度）
 - ◆ 実証運行のフォローアップ調査
 - ◆ デマンドバス実施計画策定調査（新路線）
 - ◆ 村広報誌、HPによる情報提供及びパンフレットの作成・配布

東京都檜原村 : 総合事業の実施区域

檜原村内
全域図

